

子宮がん体験者の日常生活における課題と支援の検討  
ーブログ記事のテキストマイニングを通してー

北里大学大学院看護学研究科修士課程

原野 伊都子

目次	
目次 .....	1
I. 研究の背景 .....	3
II. 研究目的 .....	4
III. 研究意義 .....	4
IV. 操作的用語の定義 .....	5
V. 研究方法 .....	5
1. 研究デザイン：量的記述的研究 .....	5
2. 対象の選定基準 .....	5
3. サンプルの選定方法 .....	5
4. 分析方法 .....	5
5. 倫理的配慮 .....	5
VI. 結果 .....	6
1. 対象 .....	6
1) 分析対象 .....	6
2) 対象の属性 .....	6
2. 解析結果 .....	6
1) テキストの基本情報 .....	6
2) 単語頻度解析 .....	7
VII. 考察 .....	10
1. 対象の属性 .....	10
2. ブログ記事からみられる体験者の特徴 .....	10
1) 日常生活の中から見える課題 .....	10
3. Web を通して発信することの意義 .....	11
1) カタルシス .....	11

2) 他者との交流と存在意義の確認 .....	12
VIII. 結論 .....	12
IX. 看護実践への示唆 .....	13
X. 本研究の限界と今後の課題 .....	13
XI. 謝辞 .....	14
XII. 文献 .....	14

## I. 研究の背景

1981年以來、がんは日本における死因の第1位である<sup>1)</sup>。子宮がんは女性に限定されたがんであり、相対的に数は少ないがんであるが、1990年以降、罹患率と死亡者数は増加の傾向にある<sup>2)</sup>。

近年、子宮がんの診断・治療技術の飛躍的な進歩に伴い、がんと診断されてから長い期間をがんと共に生きる女性が増えている。それに伴い、治療方法の多様化と共に、急性期の治療を乗り越えた子宮がん体験者は、そのものを治療するだけでは解決できない個別的で複雑な問題や矛盾を家庭や社会生活において抱えるようになった。しかし、そのような中、治療後の生活の在り方における看護支援は十分とは言い難い<sup>3)</sup>。

その状況を抱えながらも、“がんサバイバーシップ”<sup>4,5)</sup>の精神を持ったがん体験者が増えてきた。どのようにがんと向き合い自律するか、そして、どうすれば生活の再構築ができるのか、ということががんサバイバーの大きな課題となっていることから、子宮がん体験者の支援においても、その精神と課題を踏まえた長期的な支援を考える必要がある。

しかし、子宮がんの術後の補助療法後の支援は医療機関内の窓口が一般的であり<sup>6)</sup>、先に述べたようながんサバイバーシップの精神と課題を踏まえた支援を十分に出来ているとは言い難い。

既に、子宮がん体験者は医療機関の窓口以外にも、がん体験者が主体となった患者会や、web上のQ&A掲示板やブログ、Social Networking Service（以下SNS）を盛んに活用している<sup>7-10)</sup>。

ソーシャルメディアを活用した交流は、リアルタイムで日常生活上の出来事の公開や、それに対する気持ちの吐露、精神的な支え合い、受けている治療に関連する症状や対処、社会保障関連等の情報交換を行うことができる。特にブログは、より率直な感想や意見が書かれている特徴

を持っている<sup>11)</sup>。

本研究の対象となるブログ記事も、彼女たちの日常生活の世界が多く綴られており、また、がんと向き合う体験を綴った闘病記でもある。

このような当事者の心の奥深くからの語りを医療者側は真剣に受け止め、対話をし、課題の解決を図ろうとする医療が、ナラティブに基づいた医療 NBM(Narrative Based Medicine)として重要といわれている<sup>12)</sup>。

ナラティブの扱いについて、看護学では、自由記述回答やインタビュー等の質的研究法によって発言の分析を行うのが主流である。これらの技法は、分析者がテキストを読み取り解釈していく方法であるため、少数のサンプルを対象に用いられている。したがって、それらの分析結果を一般化することには限界があるという欠点があった<sup>13)</sup>。

このような課題を克服する可能性の1つとして、テキストマイニングの活用が考えられる。本研究ではこの手法を採用し、ブログから得られる多くの情報の分析を通して全体的な課題の抽出を試みたいと考えた。

## II. 研究目的

本研究の目的は、子宮がん体験者自身が開設・更新しているブログ記事のテキストマイニングを通して、日常生活における全体的な課題を抽出し、支援を検討することである。

## III. 研究意義

本研究の対象となるブログ記事の分析を通して、子宮がん体験者である彼女たちの心の奥深くからの語りから課題を知ることは重要である。また、得られた知見は今後の子宮がん体験者の支援を検討するための基礎資料となりうると考えられる。

#### IV. 操作的用語の定義

1. 子宮がん：子宮体がんと、子宮頸がんの総称
2. 体験者：子宮がんと診断後、手術と術後補助療法を終えた女性

#### V. 研究方法

1. 研究デザイン：量的記述的研究

2. 対象の選定基準

- 1) 日本語で提供されているブログ記事
- 2) 日本在住の子宮がん体験者自身がブロガーであり、かつ、本人によって投稿されたと判読したブログ記事

3. サンプルの選定方法

にほんブログ村【子宮がん人気ランキング】に参加しているブログの上位から、選定基準に該当するブログを決定する。決定されたブログの5年間の記事が本研究のサンプルである。サンプリングの対象とする記事の投稿期間は2007年1月1日～2011年12月31日である。

4. 分析方法

分析は、数理システムのText Mining Studio ver4.1を用いた。

5. 倫理的配慮

本研究は、北里大学看護学部研究倫理委員会の審査を受け、承認が得られたのちに行った。

## VI. 結果

### 1. 対象

#### 1) 分析対象

サンプリング開始日（2012年7月15日）に、にほんブログ村の子宮がんランキングに参加している101件のブログから、選定基準を満たす35件のブログが分析の対象となった。

#### 2) 対象の属性

対象者の属性を表1-1,1-2に示す

表 1-1 対象者の属性(その 1)

年代	20代(2)、30代(15)、40代(13)、50代(2)				
年齢	最年少28歳、最高齢51歳(平均年齢38.7歳)				
世帯の構成	夫婦と子どものみ(14)、夫婦のみ(9)、独居(7)、親と同居(3)、不明(2)				
婚姻	あり(23)、なし(8)、離婚(3)、婚約中(1)				
出産経験	あり(17)なし(18)				
					(n=35)

表 1-2 対象者の属性(その 2)

疾患	子宮頸がん(30)、子宮体がん(5)				
術式	広汎子宮全摘術のみ(10)、卵巣摘出・リンパ節廓清を伴う(19)、円錐切除のみ(3)、不明(3)				
現在の治療	経過観察(29)、化学療法(2)、放射線治療(2)、不明(2)				
自覚症状	排尿障害(11)、リンパ浮腫(15)、イレウス(2)、末梢神経障害(2)				
					(n=35)
	※排尿障害は術後はほぼ全例に出現 ※リンパ浮腫は、術後のみという者はいない ※末しょう神経障害は化学療法の副作用に由来				

### 2. 解析結果

#### 1) テキストの基本情報

テキストの基本情報を表3に示す。

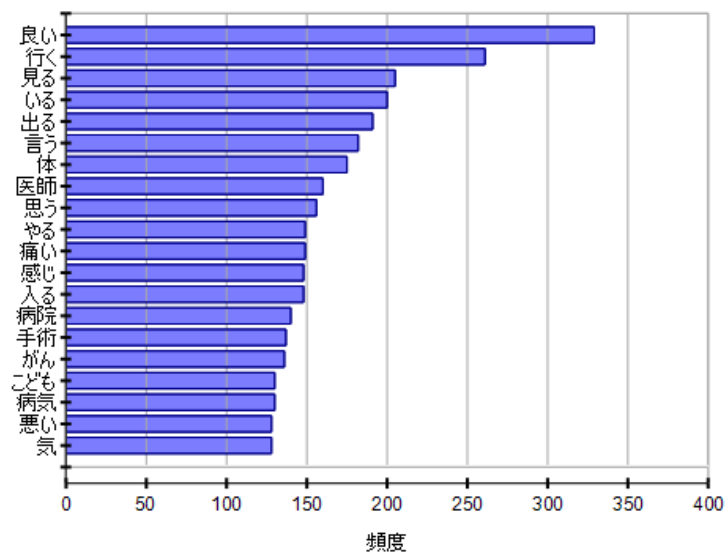
表 3 テキストの基本情報

項目	値
総行数	891
平均行数(文字数)	405.2
総文数	21638
平均文長(文字数)	16.7
延べ単語数	135382
単語種別数	22714

## 2) 単語頻度解析

分ち書きによって出力された単語の品詞を名詞・動詞・形容詞に限定し、使用頻度を出力した。全体を通して出現した単語の頻度を品詞名とともに表 4 に示す。

表 4 単語頻度解析



さらに、述語属性フィルタという機能を使用し、【要望】と【困難・疑問】について解析した。



(1) 要望

要望の解析では、表 5 に示す項目が出力された。各項目に含まれる内容は表 6 に示す通りである。主に、余暇活動に対する希望や、いままでの生活、自身の役割を全うしたい気持ち、導尿や尿路感染症予防目的に行きたいタイミングでトイレへ行くことや、リンパマッサージなどの療養に関連する行動をしっかりと行いたいなどの要望が表出された。

表 5 単語頻度解析【要望】

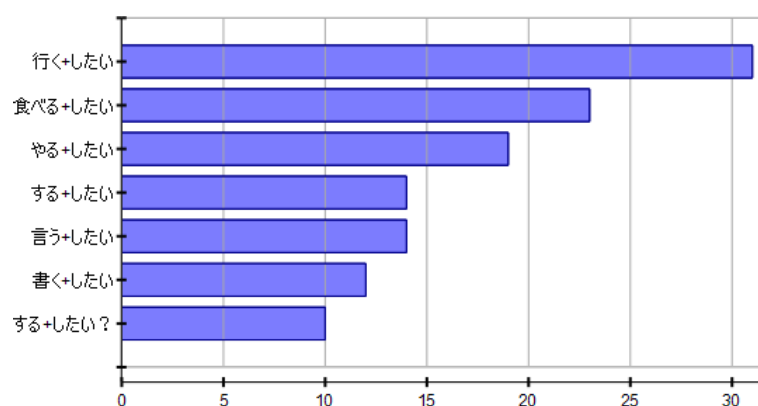


表 6 単語頻度解析【要望】の内容

要望	内容	頻度
「行く+したい」	旅行、どこか、ショッピング、コンサート(ライブ)、トイレ	31
「食べる+したい」	外のご飯、おいしいもの、家のごはん、自分で作った料理、以前から好きだった食べ物、ファストフードやソースを使った味の濃い食べ物	23
「やる+したい」	仕事、元気になったら〇〇をやりたい、おちついてセルフケア(リンパマッサージなど)をしたい、ご飯を作りたい	19
「する+したい」	仕事、母(妻)としての役割、好きなこと(気楽なこと)、何か力になれること、性生活	14
「言う+したい」	愚痴、(医師へ)質問、(お世話になった)お礼、わがまま	14
「書く+したい」	こどものこと、(手術から〇年、発症から〇年などの)節目、友人やお世話になった人への手紙、症状や心情	12
「する+したい?」	浮腫や痛み、更年期症状、夫との性生活、社会保障関連の手続き、職場復帰	10

(2) 困難・疑問

困難・疑問の解析では表7に示す項目が出力された。各項目に含まれる内容は表8に示す通りである。主に、症状のコントロールや、治療の妥当性・効果に対する疑問、療養生活に関する問い、自身と同じ困難な状況にいる仲間を探す様子や、共感を得たいような問いかけが見られた。

表7 単語頻度解析【困難・疑問】

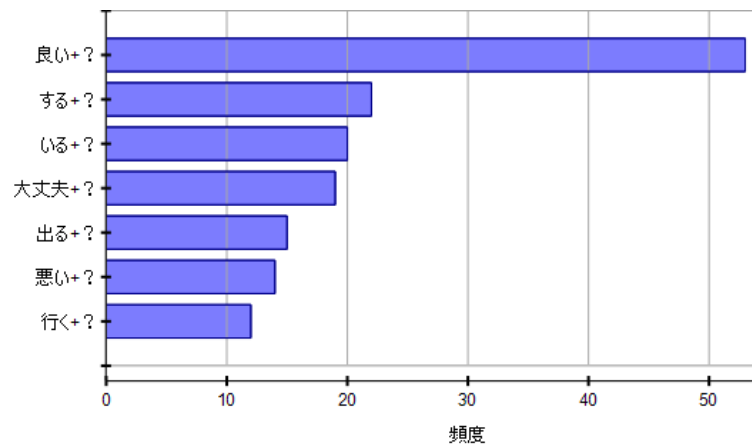


表8 単語頻度解析【困難・疑問】の内容

困難・疑問	内容	頻度
「良い+?」	病院へ行ったほうがよいか、現在の治療や処方でもいいのか、(症状に対して)どうしたらよいか、我が子に病気の話をしてよいか	53
「する+?」	(提示された治療法について)どうするか、(症状について)どうしたものか、みんなどうしているか	22
「いる+?」	こんな症状や状況に置かれている人はいるか、(購入を検討中の物に対し)必要か、どれくらい金額がかかるか	20
「大丈夫+?」	周りの人からの声掛けを指す「大丈夫か?」、自身の症状や心情に対する問いかけ	19
「出る+?」	尿、(新規に使用する薬や治療によって)出現する症状	15
「悪い+?」	症状に対して「どこが悪いのか?」という問いかけ、過去の行動の後悔、人と比べること	14
「行く+?」	余暇の過ごし先、受診の妥当性、適切な診療科	12

## VII. 考察

### 1. 対象の属性

対象の属性(表 1-1)より、ブロガーは 30-40 歳代が中心であったことから、国内のがんに関する統計と相違ないと判断した。<sup>2)</sup> また、平均年齢は 38.7 歳であり、これも、がんの全国推計値<sup>14)</sup> と相違いないため、本研究の対象の年齢は全国平均に近いものと判断できる。

世帯の構成において、子どもを持たない世帯が最も多かったのは、対象の約半数が出産経験をしていないことが関与していると推測できる。さらに、子宮頸がん検診に関しては、公費助成による隔年検診もあるが、妊娠初期のルーチンの検査において行う検査が本人にとって初めての子宮頸がん検診であることも多い。したがって、第一子妊娠時の子宮頸がん検診において、がんが発覚し、治療のため妊娠継続をあきらめざるを得ないケースも少なくないことも、子どもを持たない世帯が多い理由として考えられる。

対象の属性(表 1-2)からは、子宮がんに罹患した女性のほとんどが手術療法をうけていることが分かる。さらに、29 例は開腹手術（その内 19 例は卵巣摘出やリンパ節廓清を伴う）であることから、自覚されている排尿障害やリンパ浮腫、イレウスなどの症状はこれに由来していると推測できる。

### 2. ブログ記事から見える生活の課題

要望の解析とその内容(表 5,6)からは、余暇活動や社会・家庭内における役割遂行への意欲、セルフケアへの積極性が認められた。また、困難・疑問とその内容(表 7,8)からは、症状のコントロールや、治療の妥当性・効果に対する疑問、療養生活に関する問い、自身と同じ困難な状況にい

る仲間を探す様子や、共感を得るための問いかけが認められた。はっきりとした要望や、疑問、つぶやきのような問いかけなど、表現の形はそれぞれであったが、それらに対する支援を考える必要性は高いと考えられる。しかし、国内における子宮がんの看護に関する研究は、がんの治療に伴う身体的な問題に対するケアの検討、心理状態の分析が中心である<sup>15・24)</sup>。また、国外の研究においても治療期の症状へのケア、治療期の体験に焦点をあてた研究が中心であり、子宮がん体験者の日常生活に焦点を当てながら、支援について検討した研究は不足している状態である。したがって、本研究の結果は新しい支援の方向性を考察するための基礎資料になりうると考えられるため、今後も、さらなる検証を行う必要がある。

### 3. Webを通して発信することの意義

#### 1) カタルシス

ブログ記事には、文頭が困難や苦悩であったにもかかわらず、文末は気持ちの整理ができていくものが多いことがあった。さらに、身心の辛さを、辛いムードで書き綴っている記事はかなり少なかった。その背景にはカタルシスの効果があったと考えられる。

彼女たちは、ブログを通じて、自身の内面にある思いを吐くことができる。この行為はカタルシスと呼ばれ、抑圧された過去の深い体験と結びついた感情や葛藤を、自由に表現することによって発散することを意味する。ウェブ上に日々の欲求や情動、不安や苦悩、葛藤などを言葉にし、ありのままに吐き出すことの効果として安堵感や安定感を得ていると推測される。

## 2) ブログを通じた他者との交流と存在意義の確認

がん体験者は多かれ少なかれ、家庭生活や社会生活において、自身の存在意義が揺らぐという苦痛を持っている。子宮がん体験者も同様に、病気と向き合う生活の中で存在意義が揺るぐ苦痛を経験している。このような、自身だけでは理解しきれない局面に立った時、それを文章に起こすことで、感情や思索を咀嚼し取り込み、理解の一助とする。文章を書くことは、あらゆる表現方法の中で比較的簡単なものであるため、多くのがん体験者の中で、身近な表現方法として定着していると考えられる。また、文章は、ダイレクトに他者へ意見を伝える方法でもある。さらに、ブログにはコメント機能が設けられており、発信した文章に対して、読者からの反応（強化）を得ることができる。このような文章のやりとりや、そこで発生するお互いへの反応で、子宮がん体験者は自分の存在の問いかけと意義の確認を行っていることが推測される。

## VIII. 結論

ブログ記事の分析を通して、子宮がん体験者である彼女たちの心の奥深くからの語りから課題を知る試みを行った。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 子宮がん体験者は、余暇活動や社会・家庭内における役割遂行への意欲、セルフケアへの積極性を持っている。
2. 子宮がん体験者はブログを通じた他者との交流を行う中で、症状のコントロールや治療の妥当性・効果に対する疑問、仲間探しや、共感を得るための問いかけをしている。同時に、カタルシスの効果を得ることで精神面の安定感を得ていると推測される。

以上より、子宮がん体験者の生活には、困難のムードを持った課題の

みならず、意欲や積極性を保つための課題もあることが示唆された。特に、治療・療養に関する妥当性や効果に関する疑問への対応、意欲・積極性を高めるための介入は、今後の看護支援の検討課題となりうると考えられる。

## IX. 看護実践への示唆

テキストマイニングの活用を通して、子宮がん体験者の日常生活上の課題と支援を考えるための基礎資料を得られたことから、対象のナラティブを扱う看護研究の方法の一つとして、今後も導入する意義があると考える。しかし、従来の質的研究方法で扱ってきたデータの量より膨大になることが予測されるうえ、その中から有益な情報を発掘する、全体としての課題を見出すという概念を浸透させていく必要がある。また、コストの観点からはソフトが高額であることから、複数の研究室の連携、または病院の看護部と研究機関の共同研究により効果的な研究の展開が期待できる。

今後の看護支援については、治療・療養に関する妥当性や効果に関する疑問への対応、意欲・積極性を高めるための介入を検討する必要性が確認された。しかし、介入の余地があるのも関わらず、子宮がん体験者の日常生活には看護職の存在は薄い。したがって、彼女たちの生活の中に看護職者の存在を置く努力がことさら必要である。例えば外来の機能について再考や、看護職個人のマネージメント力を上げることなどが考えられる。

## X. 本研究の限界と今後の課題

本研究の対象は、インターネットにアクセスする環境下であり、かつ、

デジタルデバイスを活用しながら自身のことを発信することができる女性に限定されていたため、本研究の結果をそのまま一般化することは難しい。今後は、年代や ICT リテラシーの差を乗り越えた研究手法を考へることが課題である。

## XI. 謝辞

本論文を作成するにあたり、子宮がんの体験について語ってくださったブログの作成者の皆様。研究に関する細かい指導をくださった、北里大学大学院の高橋真理教授。テキストマイニングについてご教示くださった、和光大学のいとうたけひこ先生と株式会社数理システム様に感謝いたします。

## XII. 文献

- 1) 国立がん研究センターがん対策情報センター：[がん情報サービス]<http://ganjoho.jp/professional/index.html> (2012年6月27日閲覧)
- 2) 冊子「がんの統計'11」(財団法人がん研究振興財団)：[がん情報サービス][http://ganjoho.jp/public/statistics/backnumber/2011\\_jp.html](http://ganjoho.jp/public/statistics/backnumber/2011_jp.html)  
(2012年6月27日閲覧)
- 3) 遠藤恵美子, 大場正巳, 遠藤恵美子, 稲吉光子(編)：新しいがん看護, プレーン出版, 1999.
- 4) National Coalition For Cancer Survivor Ship(米国がんサバイバーシップ連合)：<http://wwwcanceradvocacy.org/> (2012年6月27日閲覧)
- 5) 近藤まゆみ, 嶺岸秀子(編著)：がんサバイバーシップ がんとともに生きる人びとへの看護ケア, 医歯薬出版, 2006
- 6) 秋元典子：手術を経験する子宮がん患者の看護実践領域における研究の外観と今後の

課題. 岡山大学医学部保健学科紀要. 14. 113-120. 2004

7) ガン患者の集い: <http://www.gan-joho.com/kuchi/index.html> (2012年6月27日閲覧)

8) 癌掲示板: <http://www.gankeijiban.com/> (2012年6月27日閲覧)

9) 卵巣がん体験者の会スマイリー: <http://ransougan.e-ryouiku.net/> (2012年6月27日閲覧)

10) 乳がんホームページ-Don't worry, be happy!:

<http://park2.wakwak.com/~hana/keijiban/index.html> (2012年6月27日閲覧)

11) IT用語辞典 e-Words: [ブログ]

<http://e-words.jp/w/E38396E383ADE382B0.html> (2012年6月27日閲覧)

12) 健康を決めるカーヘルスリテラシーを身につける-: [ナラティブ(物語・語り)]

[http://www.healthliteracy.jp/shinrai/post\\_6.html](http://www.healthliteracy.jp/shinrai/post_6.html) (2012年6月27日閲覧)

13) 鷺田万歩, 服部兼敏: 看護におけるテキストマイニングとその活用事例, 看護研究, 41(3), 249-258, 2008.

14) がんサポート情報センター: [http://www.gsic.jp/cancer/cc\\_07/vcc/index.html](http://www.gsic.jp/cancer/cc_07/vcc/index.html) (2012年11月9日閲覧)

15) 二渡玉江, 樋口友紀, 中西陽子, 廣瀬規代美, 砂賀道子: がん手術治療にともなうリンパ浮腫ケアの現状に関する全国調査, The Kitakanto Medical Journal, 59(1), 33-42, 2009.

16) 井上エリ子, 星野仁美, 金子有紀子, 川田悦夫, 大山良雄: 複合的リンパ両方によるリンパ浮腫セルフケア支援の2事例, The Kitakanto Medical Journal, 58(1), 87-92, 2008.

17) 大西ゆかり, 野本ひさ: 続発性リンパ浮腫を発症した患者に対する介入方法の検証, 日本看護学会論文集: 成人看護II, 38, 62-64, 2008.

18) 松井路子: 広汎性子宮全摘出後、排尿訓練を受けて退院した患者の実態調査, 泌尿器ケア, 13(7), 747-755, 2008.



- 19) 引地和子：広汎子宮全摘術後患者の排尿障害の実態と排尿障害ケアの検討，日本看護学会論文集：成人看護Ⅰ，42，111-114，2012.
- 20) 黒澤やよい，田邊美佐子，神田清子：子宮全摘出術を受けたがん患者が配偶者との関係性を再構築するプロセス，日本がん看護学会誌，24(1)，3-12，2012.
- 21) 砂賀道子，二渡玉江：がん体験者のレジリエンスの概念分析，The Kitakanto Medical Journal，61(2)，135-143，2011.
- 22) 関美幸：頭頸部領域以外の癌化学放射線療法で発症する口腔内症状の実態と看護，The Kitakanto Medical Journal，60(4)，339-344，2010.
- 23) 河合晴奈，高山紗代，今井美和：子宮がん検診の受診行動に関わる因子の検討，石川看護雑誌，7，59-69，2010.
- 24) 関屋伸子，原由希子，谷口一郎（他）：若年男女における子宮頸がん検診に関する意識の比較，日本看護学会論文集，41，33-35，2011.